

日本建築学会 学術推進委員会
(2006.3.17)

海洋委員会 活動報告

海洋委員会 組織構成

(2004年度～2008年度)

海洋委員会

海洋研究推進運営委員会 (調査研究推進部門)

コンセプト設計小委員会
都市機能支援システム小委員会
都市防災支援システム小委員会
フィジビリティスタディ小委員会

海洋企画運営委員会 (情報発信部門)

事業企画小委員会
出版小委員会
広報小委員会

構造設計指針見直しWG

都市機能補完型海洋建築の展開

第1ステージ (2000年～2004年)

「都市機能補完型海洋建築」の提唱と提案

浮遊式都市危機管理センター

浮遊式都市環境監視センター

浅場のネットワーク

第2ステージ (2004年～2008年)

都市機能補完型「アダプティブ海洋建築」の提案

「アダプティブ海洋建築」のコンセプト

「アダプティブ海洋建築」への要求性能

「アダプティブ海洋建築」の構造形式(モジュール連結浮体構造)

2005年度 活動内容()

海洋本委員会

本委員会の開催(4回, 2006年3月末まで)

本委員会の活性化

委員の任期制と交代制の導入

国土形成計画に関する懇談会(2005年10月25日)

海洋フォーラム(2005年8月3日)

「海洋立国に向けた第3期科学技術基本計画に対する提言」
に関するフォーラム

2005年度 活動内容()

海洋研究推進運営委員会

2005年度大会研究協議会

「アダプティブ海洋防災拠点の提案
ー都市防災に備えてー」

アダプティブ海洋建築への要求性能

アダプティブ海洋建築の構造形式と要素連結
技術

2005年度 活動内容()

海洋企画運営委員会

2005年度 日本建築学会研究協議会の企画・運営

「アダプティブ海洋防災拠点の提案 - 都市防災に備えて - 」

2000～2004年度 海洋委員会調査研究活動報告書の
出版企画・推進

「海を利用して安全で快適な都市をつくる

- 都市リスクを減らす新たな道 - 」(仮題;第3次原稿完成)

海洋建築物構造設計指針の改定

海洋委員会ホームページのリニューアル

海洋委員会 研究協議会テーマ一覧

(2000年度～2006年度)

2000年度大会

「都市機能補完型海洋建築」を考える

2001年度大会

「都市機能補完型海洋建築」の実現に向けて

2002年度大会

「都市機能補完型海洋建築」実現へのシナリオ

2003年度大会

「都市機能補完型海洋建築」の計画と提言

2004年度大会

都市・建築の新たなフィールドとしての海洋空間を再考する

2005年度大会

アダプティブ海洋防災拠点の提案 - 都市防災に備えて -

2006年度大会

実例を通して「アダプティブ海洋建築」を考える
- 横浜港メガフロートを実例として -

アダプティブ海洋防災拠点の提案

・現状：都市災害に対する陸域中心の防災ネットワークシステム

・教訓：兵庫県南部地震時における消火活動，被災者・避難者の搬送，救援物資の運搬

↓
浮体式防災基地（東京湾，伊勢湾，大阪湾）

↓
・新提案：アダプティブ海洋防災拠点
都市災害に対する海洋空間利用
（都市機能補間型海洋建築）
防災拠点の時空間に関して変化する要求性能に対応可能
（アダプティブ海洋建築）

兵庫県南部地震時の船舶・海洋建築物の利用状況

サウンズオブセト

避難所, ガスの復旧作業員の宿泊

おりえんとえびなす

消防隊員, 医師, 看護婦らの宿泊

鄭和・備集

電力復旧作業員の宿泊

深江丸

医師団の宿泊, 教職員の入浴

こんぴら2・りつりん2

入浴サービス(利用者数2,000人/日)

銀河丸・北斗丸・海洋丸ほか3隻

炊き出し

ホテルシップシン
フォニー

入浴サービス(利用者数1,500人/日)
復旧工事関係者の宿泊

アダプティブ浮体式海洋防災拠点の有効性

免震性：阪神淡路大震災の際も、浮体式構造物は無被害であった。

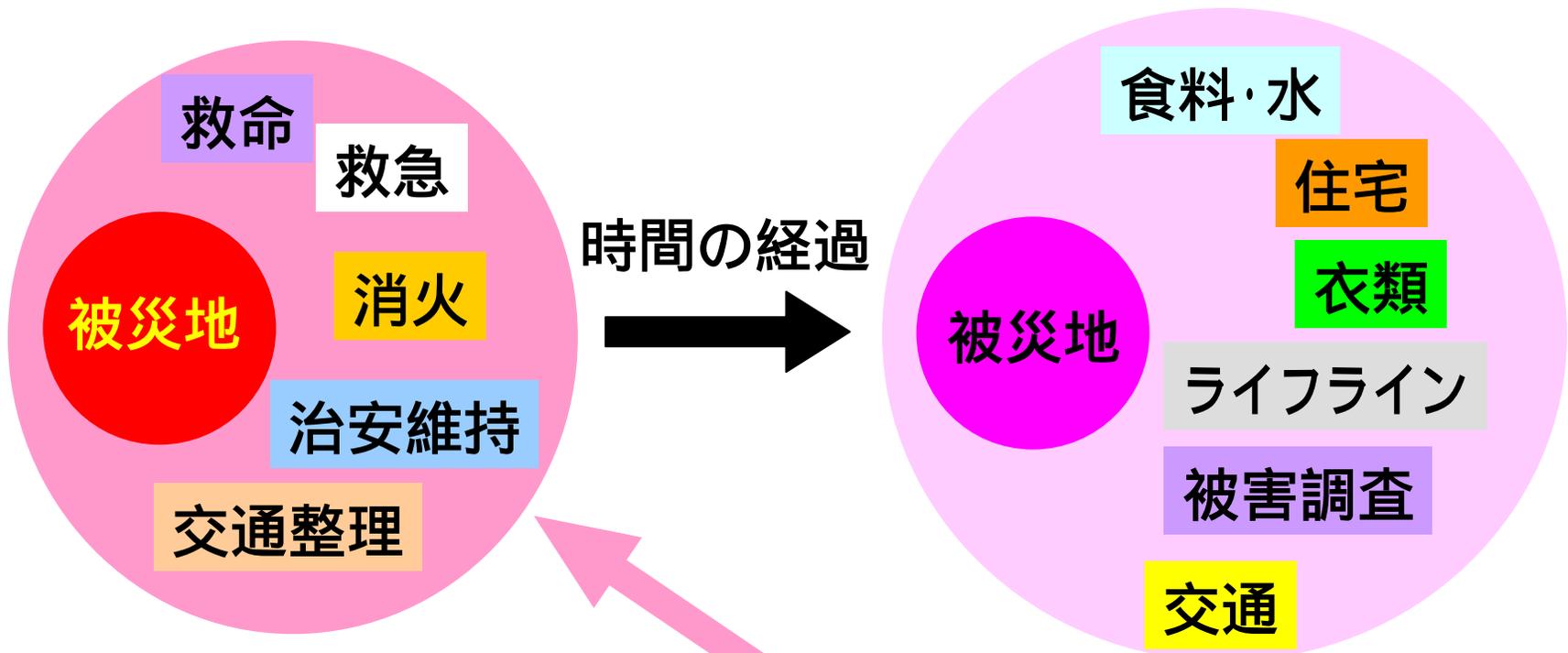
可動性：曳航により被災地に移動して支援活動に従事できる。

可変性(2次元, 3次元)：高さ(水深), 幅(面)を変更することにより, 形態, 規模, 配置を可変的にでき, 様々な性能の変動に対応可能となる。

空間利用：上部と内部に広大な利用可能空間を有する。

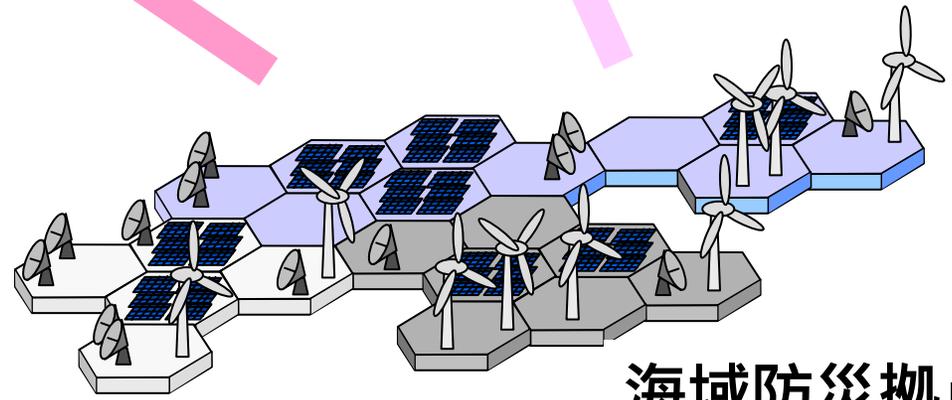
陸域との連結性：喫水調節によって陸域と連結できる。

自己完結性：構造物内で生活のシステムを構築できる。

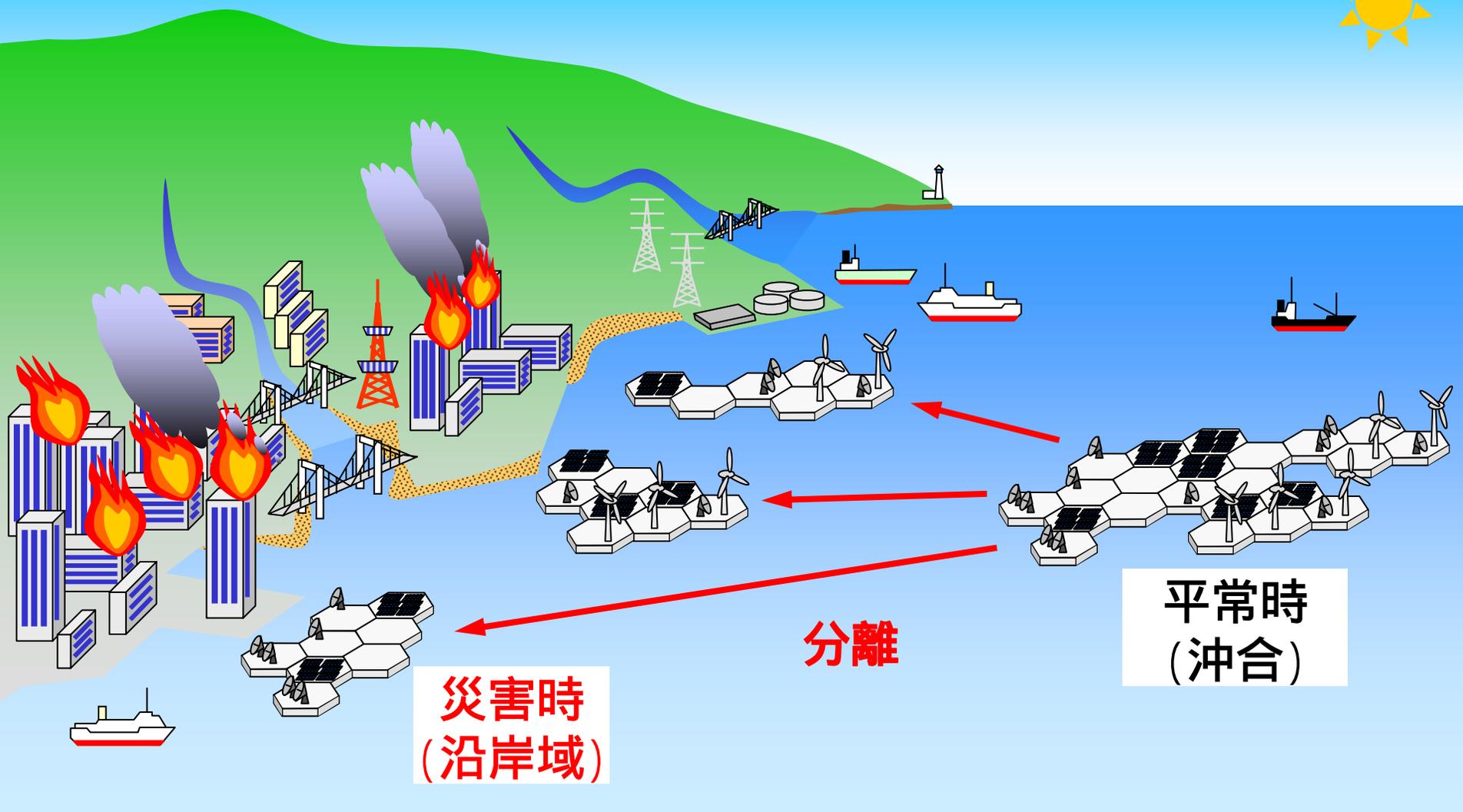


被災直後

復旧支援



変化する要求性能にアダプティブに対応する海洋防災拠点



災害時
(沿岸域)

分離

平常時
(沖合)

平常時から災害時に移行する海洋防災拠点